北九州テレビInternet TV NEWS
http://www.kitakyu.tv DIGEST
お問合せ：info@kitakyu.tv
©北九州テレビ 2006

２００６．７．４第　　25号

「第14回　港と製鐵所子供スケッチ大会」

―主催：新日本製鐵㈱八幡製鐵所―

平成18年6月10日

新日本製鐵㈱八幡製鐵所では、「第14回　港と子供スケッチ大会」を北九州市戸畑区飛幡の同社総合センター周辺において６月１０日、開催した。

同スケッチ大会は、八幡製鐵所が子供たちの美術への関心を高めると共に、地域社会の方々に幅広く八幡製鐵所を理解してもらうため開催しているもので、北九州市内の戸畑区・八幡東区の幼稚園、小学校、中学校の児童・学生ほか引率してきたＰＴＡおよび従業員、関連企業の子弟など昨年より約100名多い450余名の参加者で賑わった。

大会要項を説明する北之迫マネジャー

大会説明を熱心に聞き入る参加者たち(写真上下)

同催しは、同社が画用紙と画板を準備し、スケッチを行った子供たち全員に参加賞が手渡された。また、参加者全員に昼食も準備され、食堂では、子供たちの大きな声があがっていた。

また、７月 15 日には同社総合センターのアートギャラリーにおいて、小・中学生にアートギャラリー賞・金賞・銀賞・銅賞および入選者の授賞式が行われる。入選作品は７月３日から８月 25 日までの期間、八幡製鐵所総合センターのアートギャラリーに展示される予定となっている。

今回の催しについて新日本製鐵㈱八幡製鐵所総務グループの北之迫マネジャーは、「八幡製鐵所は、地域の方との共生ということで、八幡製鐵所を広く知って頂きたい。そいう意味で小学校の頃から絵を通して、この海の良く見えるこの場所を利用して、絵とともに当所を親しんで頂きたい。また、絵を見て分かるように一人ひとりがいろんな景色を見ていろんな想像力で絵を描いている。スケッチは、物をよく見て生きた絵に仕上げるという作業と八幡製鐵所も同じように一人ひとりの力を結集して一つの製品を創り上げているという点では共通していると思っている。また、今年で１４回目となるが、この企画を通して子供たちと八幡製鐵所とのつながりを持ちたいと思っているので、今後ともスケッチ大会を続けて行きたい」と語った。

また、今回のスケッチ大会を担当した本田さんは、「私は、去年よりこのスケッチ大会を担当しているが、年々参加者が増えていることは喜ばしいこと思っています。昨年は、あいにくの雨だったので建物の中から描いた作品が殆どであった。その作品は、様々な工夫がみられ子供たちの絵に対する思いが十分に出た作品となっていた。しかし、今日のような気持ちのいい天気の下で描いて頂いたことは担当者としてホッとしている。また、今後もこのように地域の方に喜んで頂けるような、工夫を考えて行きたいと思っています」と語った。

また、いろんな方にスケッチ大会の印象を伺ってみると、ボランティアで受付を行っていた冷延メッキ工場の川本さんは、「普段は、鉄板という無機質なものを相手にしているが、今回は子供というかわいらしく輝いた方々と接することができて、私の心も温かくなりました。そして、今後とも続けて行きたいと思っています」と語った。

中学校の美術部を引率してきた北九州市立枝光台中学校美術部顧問の山口先生は、「日頃は学校において部活動を行っているが、なかなか校外に出て部活動をすることが少ないので、こういう機会に外の風景を描くということはとても良かったと思います。今後、このようなスケッチ大会の時には、声をかけて頂ければ学校としてもできるかぎり参加したいと思います。また、地域の方や、家族の方々がこられていることと、皆さんが楽しい雰囲気のなかで、スケッチをされている光景をみると今後とも是非続けて頂きたいと思います」と語った。

真剣にスケッチに取り組む参加者

また、三島光産㈱広報の桑野さんは、「いつも仕事が忙しいので、今日は一日子供たちと一緒に過ごせると思って参加しました。また、普段は入れないところに子供も連れて来られたし、今後とも、ぜひ続けて欲しいと思っています」とインタビューに答えた。

外なので色んな絵が描けて嬉しいと語る中学生

あやめが丘学童クラブの一井主任指導員は、「学童クラブでは、いつも土曜日の時間は、図書館に行ったり、戸外で遊び事を中心に活動してるが、こういったスケッチ大会は、なかなか参加する機会がないので、今日は、子供達にもそういった体験をさせたいと思って参加しました。また、色んな年齢の小・中学校のお兄ちゃん、お姉ちゃんもいますし、そういったお友達の描いている絵を見るのも参考になるので、これからも続けて欲しい」と語った。

子供たちを引率してきた坂本さんは、「私もこのような企画を知らなかった頃、市民センターに八幡製鐵所の庶務の方がこられてスケッチ大会の説明をして頂いた。当日、私も参加したところ、製鐵所の中に海の見えるところがあり、スケッチをしていても気持ちよく絵がかけ、食事も社員の方々の気持ちが伝わって来ました。是非、このまま続けて頂ければ参加した子供たちも喜んでいますし、私も微力ながら子供たちが参加できるように協力して行きたいと思います」と語った。

社員食堂は、子供たちの声が響き渡っていた！

ボランティアで参加している新日鐵社員の笑顔が印象に残る

一枚一枚作品を確認しながら、参加賞を進呈する社員

昨年も参加した、北九州市立枝光台中学校３年生の美術部の男子生徒たちは「去年は、雨で室内から描いたが、今年は天気が良くて外で描いていると、色んなものが描けて嬉しいです」・「このスケッチ大会では、自分で満足できるような絵を描きたいと思っている」また、同中学校２年生の美術部２年生の女子生徒たちは「今回は２回目で、人と木と海の絵を描こうと思っています」・「前回は、部屋の中で描いたが、今回みたに外で描いたほうが良いと思っています。また、機会があったらここで描きたいと思います」・「ここに来るまでは、何を描くか決めてなかったが船を描こうかと思っています」と一人ひとりの思いを語って頂いた。

子供たちの描いた力作の一部